

2019全国大会（神戸グリーンアリーナカップ）を振り返って

監督 雉子谷 忠

9月7日、8日、9日と三日間の日程で兵庫県で開催された民間のフットサルの全国大会、神戸グリーンアリーナカップにU18の北海道選抜（男子）として参加してきました。結果はご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、優勝という最高の形で終わることが出来ました。女子の部でも優勝することが出来、アベック優勝をすることが出来ました。

今回の大会に挑むに当たって①どのような準備をしたのか、また準備期間中に感じた課題。②大会中はどんなことを気を付けて過ごしたのか、そしてその課題。今後北海道のフットサルはどのようなことをやっていけないといけないのか、私が個人的に意識したことや、感じたことを報告させていただきます。

①準備について

今年は合計4回の活動機会を頂き、セレクションとトレーニングを行いました。学校祭等の関係で2回の活動をセレクションに当てることになりました。セレクション希望の選手には、それぞれの日程のどちらかにセレクションを受けてもらい合計42人の選手達がセレクションを受けてくれました。その中から大会に連れていく14人を選出しました。

活動回数が少ないので、セレクションは選考だけに当てる訳にはいかず、セレクション兼トレーニングということに当てました。

練習内容は選抜チームで取り組むプレーモデルをミーティングで説明してから、行うようにしました。

4回のセレクションのうち、1回目のセレクション兼トレーニングでは定位置守備について、2回目のセレクション兼トレーニングでは攻守におけるトランジションについて、3回目のトレーニングではセットプレーについて、4回目のトレーニングでは定位置攻撃について行いました。

どれも30分程度のミーティングを行いガイドラインを説明してからおこないました。

特に初回のミーティングではU18男子北海道選抜のビジョン、ミッション、バリューを伝えました。特にバリューの共通の価値観については、最後まで徹底して意識してくれましたので、初回のミーティングは本当に重要だと思います。

学校祭や全国大会と活動日が重なり全員が集まって練習出来たのは、3回目のセットプレーのトレーニングの時だけでした。

そんな中でも共有を図るために、ミーティングの資料は全て観れるようにし、ミーティングの映像み観れるように撮影し、YouTubeの選抜チーム用アカウントにアップロードしました。

練習の映像も撮影をし、アップロードしました。時には映像編集も行い、選手達にプレーモデルを理解してもらうようにしました。

少ない活動回数は選抜チームの宿命なので、出来ることは全て行って大会に挑めるように準備は行いました。選手達も選ばれた誇りを持って、休んだ分は見直してくれていたと思います。

以上がセレクションを含めた準備の時に行った内容です。

課題としては予算の関係もありますが、活動回数が少ないこと、他には裾野を広げるための連絡がうまく回らない地域があったことでした。

具体的には、今回はフットサルの大会に出場している高校のサッカー部には案内を出そうと言うことで連絡がいつているはずなのですが、何故かどこかで連絡が止まってしまっていました。

北海道選抜の目的は何なのか？若年層のフットサルの普及と強化はもちろん、私はこんな事もあるのでは？と感じています。

それは、高校生の進路のためです。北海道選抜に選ばれることは高校生にとってはマイナスにはならないはずですが、特に進学を考えている選手にはプラスになる

はずです。

目的が同じであれば手段はどうあれフットサルに興味がある北海道の全ての高校生に、セレクションを受けるチャンスがあるようにしていきたいと感じました。選考出来る人数に上限はあるので書類選考もあるかもしれませんが、それでも連絡が回らないよりはいいと思います。なぜならば、北海道選抜の目的は強化と普及なのですから。大人の事情や何かしらの都合でそのチャンスを摘んでしまうのではなく、もっとオープンマインドで同じ目的達成のために力を合わせることはできないものなのか？ということを感じました。

以上が出発までの活動内容と課題の報告でした。

次に②大会期間中の取り組みと、課題についてです。

予選は3チームのリーグ戦で1位だけが決勝トーナメントに進めるという、負けたら終わりのレギュレーションでした。試合時間は15分のランニングタイムであつという間に試合が終わってしまいます。選手達には『予選では絶対に負けられない』という意識があったと思います。

私のミスとしては選手の性格を把握し切れていなくて、煽ってしまったような気がします。初戦は固くてガチガチで、特にフットサル経験者は責任を感じていたように見えました。そんな中いい意味で期待を裏切ってくれたセットはフットサル経験の浅いセットでした。

彼らの活躍もあってフットサル経験のある選手が落ち着きを取り戻し1-0で勝利。大切な初戦を全員が出場して勝ちきりました。

フットサル経験が浅い選手も数多くいたので、意識的に全員を出場させるようにしました。具体的には全ての試合で3セットで回しました。GKも前後半で交代しました。この決断には悩みが伴いますが、彼らの成長具合+チームとしての一体感のアップを期待し、信じて使い続けました。最終的には決勝でも走りきることが出来たのはトレーナーさんの力もありましたが、全員を使い続けたことも大きかったと思います。

夜のミーティングでは試合後にすぐに編集した動画を観て、プレーモデルの確認をしました。また対戦チームのスカウティングも行い、選手達に伝えました。時間が足りない時は夜中に編集した動画をYouTubeにアップをし、起きてから会場に着くまでに選手に個々のスマホで観てもらいました。

個人技術が大会中に上がることは難しいのですが、フットサルの原理原則の理解、プレーモデルの理解は夜のミーティングで格段にレベルアップしたと感じました。

予選リーグ2試合目では、気持ちのことには触れずに伸び伸び闘わせました。初めから気持ちが切れることが無いチームだったので、これでいいと判断しました。結果4-1で勝利。ミーティングの成果が出て、例えば「セカンドポスト」「リバウンドポジション」「3番の絞り」というチームの共通言語が試合中に出るようになりました。

翌日の準々決勝は昨年度の優勝チームで先日行われた全国大会でも3位に入ったFリーグ湘南の下部組織との試合でした。格上相手でしたが、守備の強度を上げて相手にパスをつながせないことで耐えました。前半にカウンターから奪った虎の子の一点を守り切り、優勝候補を撃破しました。確実にレベルアップしているチームに手応えを感じました。

準決勝は岡山県作陽高校のサッカー部で途中からフットサルだけを専門に練習しているチームとの対戦でした。最新の戦術を使ってくることはスカウティングで分かっていたので、それを確認し、この試合も厳しくDFをすることで相手の攻撃を食い止めました。どんどん成長している選手達が攻守に渡っていいシーンを作り、4-2で勝利しました。

決勝まで来て負けてしまうことはすごく悲しいこと、ここまできたら決勝戦も挑戦しようということで挑みました。相手はFリーグの下部組織シュライカー大阪のU18でした。トップチーム同様に攻撃が多彩で最新の戦術はもちろん原理原則を理解した攻撃を駆使し、先日の全国大会で準用した競合です。持ち前の攻撃力で試合を支配されますが、先制ゴールのスーパーゴールで勢いづいた選手達は相手

の攻撃にも激しい守備で対応し始めます。後半もキックインから素晴らしいシュートが決まり、その後パワープレーをしかけられますが、パワープレー返して1点を取り、GK戸田を中心とした落ち着いた守備でゴールを守り切り3-0で勝利しました。

活動回数4回（うち全員があつまったのはたったの1回）、フットサル経験の浅い選手達も多数いるチームが優勝出来るとは正直思っていませんでしたが、チームの一体感は日に日に高まっていき、うまくいかないことももちろんありましたが、私は小さいことは気にしないで前を向かせたつもりです。

とにかくフットサルを好きになってもらおう、せっかく北海道選抜のユニフォームを着て闘うのだから楽しい全国大会にしてあげよう、14人全員で闘おうというスタンスでいました。正解は分かりませんが、結果的に全てがうまくいき、運も味方してくれたことが優勝出来た大きな要因だと思います。

感じた課題は大きく分けて3つです。

1つ目は、フットサルの内容です。勝ちましたものの、内容としてはまだまだFリーグの下部組織には及ばなかったというのが率直な感想です。特に定位置攻撃のチーム戦術、個人戦術の部分では課題が残りました。選抜チームでは活動回数が少なく着手したもののレベルを上げることが出来ませんでした。各チームでの戦術力向上、またそれを可能にするフットサルの講習会や戦術的なクリニックを行っていく必要があると感じました。

2つ目は、日常の環境です。特に関東ではU18年代のリーグ戦が行われており、試合に向けてのスカウティング、トレーニング、ゲーム、反省というサイクルが行える環境があります。北海道の地域の特色として夏はサッカー、冬はフットサルという現状があります。将来的には夏もフットサルをやっている選手達だけでこの大会に挑めるようになることが目標だと思いますが、タレントに関してはサッカー選手の可能性は大きいです。最低でも冬場だけでもリーグ戦を継続して行うこと、その中で「しっかりと」フットサルを行うことが北海道のフットサルのレベルアップにつながるはずです。この「しっかりと」ということがとても大切で、各チームの指導者がフットサルという別競技をしっかりと学び、トレーニング

することが大事だと考えます。そこまでいくとそれはサッカーにもつながるはず
です。サッカーの延長線上のフットサルでは正直サッカーにはつながりません。

3つ目はお金の問題です。今回の全国大会にかかった費用は北海道選抜の選手
は10万円以上です。会場の都合で大会がお盆にかかり、帰りの飛行機代金が高く
なっていました。選手の全国大会の参加費については全額は難しいとして
も、選手達の負担をもう少し減らすことはできないでしょうか？

北海道のフットボールのファミリーの一員として、誇りを持って闘う選抜の選手
達にもう少しでも予算をつけて頂くことはできないでしょうか？今回も経済的な
事情からセレクションを受けることが出来なかったタレントがいると聴いていま
す。このお金の問題の解決無しに、北海道でのフットサルの強化・普及はあり得
ないと思います。きれい事抜きにしてお金の問題と真剣に向き合い、どのように
予算を確保し、分配していくのか議論して頂きたいと思います。

最後になりますが、このような最高の形で結果を報告することが出来たことは
とても光栄です。選手達の笑顔や嬉し涙、充実した顔は忘れられません。このよ
うな経験、体験を次世代の選手達にもさせてあげたいと心から願っています。

決勝戦の動画がYouTubeにアップされていますので、よろしければご覧下さい。

<https://youtu.be/i-9ZC1nKq1k>

U18男子北海道フットサル選抜監督
雉子谷 忠